

# marantz®

**Model PM-10 取扱説明書**

---

Integrated Amplifier

# 目次

使用上のご注意 .....	2
携帯電話使用時のご注意 .....	2
お手入れについて .....	2
結露(つゆつき)について .....	2
付属品 .....	3
リモコンについて .....	3
乾電池の入れかた .....	3
リモコンの使いかた .....	3
特長 .....	4
高音質 .....	4
多彩な機能 .....	4
各部の名前 .....	5
フロントパネル .....	5
リアパネル .....	6
リモコン .....	7
<b>接続のしかた .....</b>	<b>9</b>
スピーカーを接続する .....	9
スピーカー A/B 接続 .....	10
バイワイヤリング接続 .....	10
再生機器を接続する .....	11
バランス端子について .....	11
録音機器を接続する .....	11
F.C.B.S.接続 .....	12
F.C.B.S.接続の準備 .....	12
ステレオコンプリートバイアンプ接続 .....	13
5.1 マルチチャンネルの接続 .....	15
プリアンプを接続する .....	16
リモートコントロール端子付きの機器を接続する .....	17
マランツ製オーディオ機器をリモート接続する .....	17
電源コードを接続する .....	17

## 再生のしかた .....

**18**

電源を入れる .....	18
入力ソースを選ぶ .....	18
音量を調節する .....	18
一時的に音を消す(ミュートイング) .....	19
音量バランスを調節する .....	19
ディスプレイやイルミネーションランプを消灯する .....	19
イルミネーションランプを常に消灯する .....	19
CD を再生する .....	20
録音する .....	20

## 設定のしかた .....

**21**

メニュー一覧 .....	21
メニューの操作のしかた .....	21
PUREST .....	22
PHONO .....	22
AUTO STBY(Auto Standby) .....	22

## 困ったときは .....

**23**

こんなときの解決方法 .....	24
故障かな?と思ったら .....	25
エラーメッセージについて .....	27
保証と修理について .....	28

## 付録 .....

**29**

用語の解説 .....	29
主な仕様 .....	30
索引 .....	32

## 使用上のご注意

### 携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

### お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

### 結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1～2 時間放置してから使用してください。

#### ステレオ音のエチケット



- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

お買い上げいただきありがとうございます。  
本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。



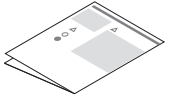
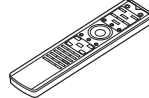
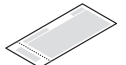

本書は Web ブラウザ上でもご覧いただけます。タブレットまたはパソコンから、Web ブラウザを立ち上げて、次の URL を入力してください。

[manuals.marantz.com/PM10/JP/JA/](http://manuals.marantz.com/PM10/JP/JA/)



## 付属品

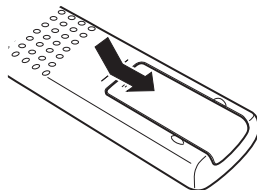
ご使用になる前にご確認ください。

 取扱説明書(本書)	 電源コード【本機専用】
 安全にお使いいただくために	 リモコン (RC004PMSA)
 保証書	 単4形乾電池(2本)

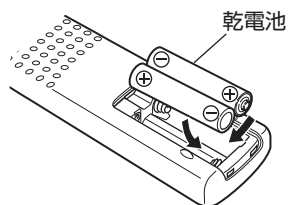
## リモコンについて

### 乾電池の入れかた

1 裏ぶたを矢印の方向へスライドして取り外す。



2 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



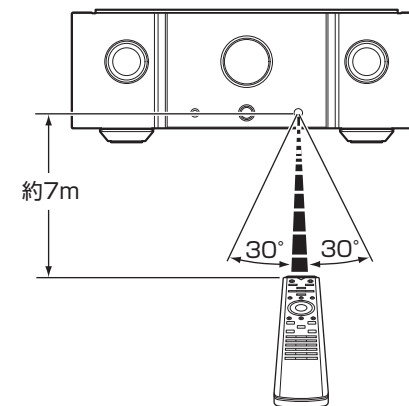
3 裏ぶたを元どおりにする。

#### ご注意

- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

## リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。



# 特長

## 高音質

### • HDAM®SA3 モジュール

上級モデルで開発した HDAM®SA3 を搭載しました。本機では、電流帰還型の PHONO イコライザーなどに HDAM®SA3 を多数使用しています。

### • 全段バランス構成アンプ回路

本機は全段バランス構成とし、パワーアンプ部は BTL (Bridged Transless) 接続により出力を得ています。スピーカーのプラス、マイナス両端子をパワーアンプの出力段により直接駆動するため、高いドライブ能力を発揮することができます。また、スピーカーのドライブ電流がグラウンド回路に直接流れ込まないため、増幅の基準となるグラウンド電位が安定し、ノイズや回路間の干渉が低減され正確な増幅がおこなえます。

### • リニアコントロール・ボリューム

上級モデルのデザインコンセプトを踏襲したリニアコントロールボリュームを搭載しました。Micro Analog Systems 社製 MAS6116 と HDAM®SA3 を組み合わせ、更に S/N 比を向上させました。0～ -100dB の範囲を±0.5dB 刻みでスムーズにコントロールします。

### • Hypex 社製スイッチングパワーアンプモジュール

パワーアンプには、Hypex 社製 NCore®スイッチングパワーアンプモジュールを BTL 仕様で合計 4 基採用しています。低域から高域に至るまで歪が少なく、スピーカーのインピーダンスにかかわらず周波数特性が変化しない、非常に優れた性能を備えたスイッチングアンプモジュールです。HDAM®SA3 を使用したハイスピードなプリアンプ回路と組み合わせることにより、DSD やハイレゾ音源の持つきめ細かな情報を忠実かつ精緻に描き出します。

### • 2 アンプ構成

上級モデルのデザインコンセプトを踏襲し、ボルテージアンプとパワーバッファによる 2 アンプ構成としました。2 アンプ構成にすることでパワーバッファが強力にスピーカーをドライブし、スピーカーからの逆起電力の影響をも遮断します。ボルテージアンプは低歪でパワーバッファをドライブします。

### • コンスタント・カレント・フィードバック型フォノイコライザー

上級モデルで開発したコンスタント・カレント・フィードバック型のフォノイコライザーを搭載しました。NF 型フォノイコライザーと CR 型フォノイコライザー両方式の長所を併せ持つマランツ独自の方式で、MM カートリッジおよび MC カートリッジに対応します。PHONO 入力端子には入力インピーダンス切替機能も装備しており、中～高インピーダンスのカートリッジの他、ハイエンドブランドのカートリッジに代表される 2～10Ω 程度の低インピーダンスカートリッジにも、最適な入力インピーダンスで対応します。

### • 高音質パーツの採用

新規採用の高音質メルフ抵抗やフィルムコンデンサをはじめとして、回路の随所に高音質部品を採用しています。

### • ディスプレイ

本機のディスプレイに LCD (液晶表示板) を採用しました。他の方式のディスプレイに比べて駆動電力が少なく輻射ノイズが小さいため、音質への影響が極めて小さくなっています。

### • ダブル・レイヤード・シャーシ

### • 高級銅削り出しアナログ音声入力端子 (CD/PHONO のみ)

### • 高級銅削り出しスピーカー端子

## 多彩な機能

### • Purest モード

最低限のリスニングに不要な回路の電源を遮断することにより、更に音質を向上させます。

### • F.C.B.S.制御

F.C.B.S.(Floating Control Bus System)は本機を最大 4 台まで接続して連動動作させる機能で、コンプリートバイアンプやマルチチャンネルなど多彩な用途で使用することができます。また本機を複数接続しても、本機同士でアースループが生じないため、音質に悪影響を与えません。

### • バイアンプモード

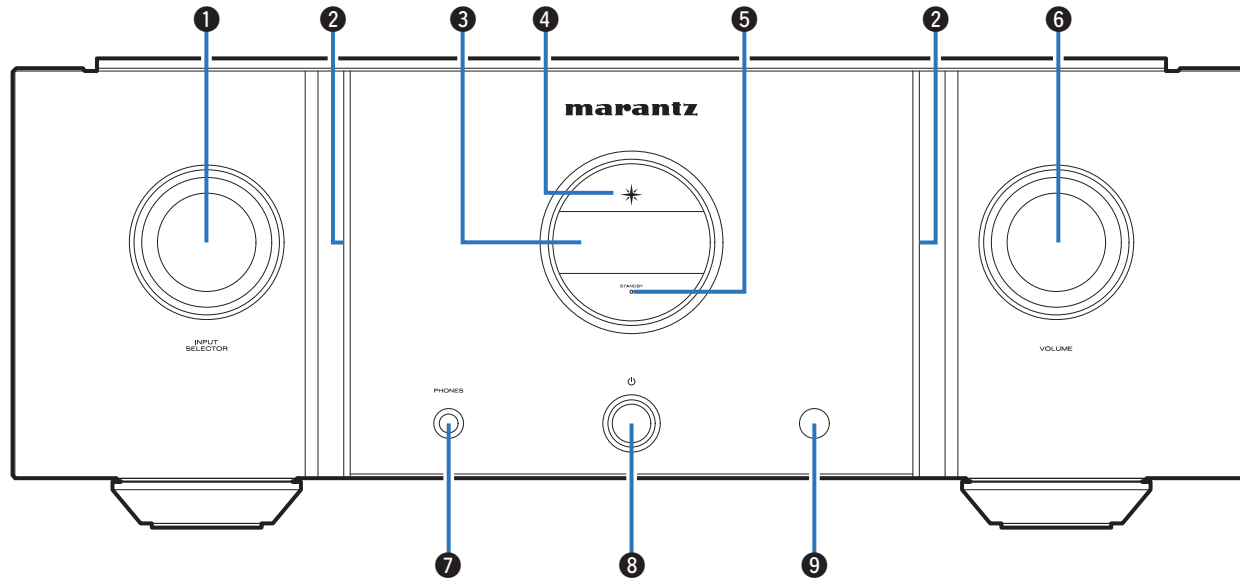
マランツが提案するコンプリートバイアンプ接続はこれまでにない音場空間の再現が可能です。本機を 2 台接続し、それぞれをモノラル・インテグレートッドアンプとして動作させるバイアンプモードに設定して、F.C.B.S.(Floating Control Bus System)制御で連動動作します。

### • パワーアンプモード

プリアンプと接続し、本機をパワーアンプとして使用できるパワーアンプモードを搭載しています。

# 各部の名前

## フロントパネル



**① 入力ソース切り替えつまみ (INPUT SELECTOR)**

入力ソースを切り替えます。(P.18 ページ)

**② イルミネーションランプ**

電源をオンにすると青色に点灯します。

**③ ディスプレイ**

各種情報を表示します。

**④ 電源表示**

電源の状態によって、次のように点灯します。

- 電源オン時: 青色
- スタンバイ時: 消灯
- 電源オフ時: 消灯

**⑤ スタンバイ表示 (STANDBY)**

電源の状態によって、次のように点灯します。

- 電源オン時: 消灯
- 電源オン後、再生可能な状態になるまで: 赤色 (点滅)
- 通常のスタンバイ時: 赤色
- 電源オフ時: 消灯

**⑥ 音量調節つまみ (VOLUME)**

音量を調節します。(P.18 ページ)

**⑦ ヘッドホン端子 (PHONES)**

ヘッドホンを接続します。

ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカー端子から音が出なくなります。

**ご注意**

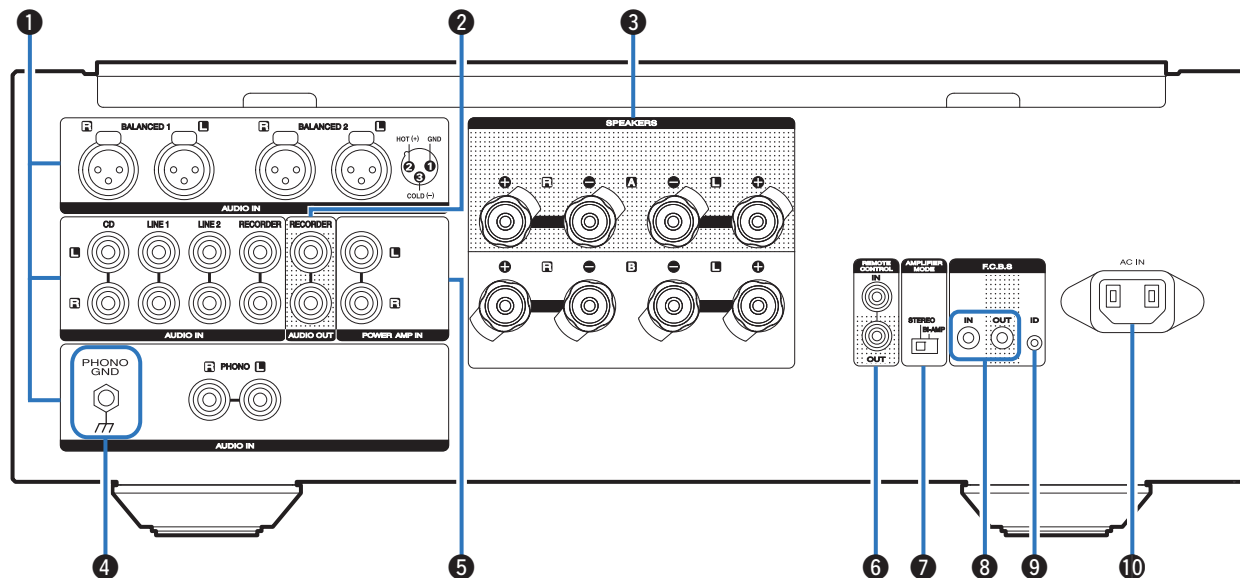
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

**⑧ 電源ボタン (⏻)**

本機の電源をオン/オフします。(P.18 ページ)

**⑨ リモコン受光部**

リモコンからの信号を受信します。(P.3 ページ)



## ① アナログ音声入力端子 (AUDIO IN)

アナログオーディオ端子付きの機器を接続します。

- ・「再生機器を接続する」(11 ページ)
- ・「録音機器を接続する」(11 ページ)

## ② アナログ音声出力端子 (AUDIO OUT/RECORDER)

録音機器の入力端子を接続します。(11 ページ)

## ③ スピーカー端子 (SPEAKERS)

スピーカーを接続します。(9 ページ)

## ④ アース端子 (PHONO GND)

レコードプレーヤーのアース線を接続します。  
(11 ページ)

## ⑤ パワーアンプ入力端子 (POWER AMP IN)

本機をパワーアンプとしてご使用になる場合に、プリアンプを接続します。(16 ページ)

## ⑥ リモートコントロール入出力端子 (REMOTE CONTROL)

リモートコントロール機能に対応しているマランツ製オーディオ機器を接続します。(17 ページ)

## ⑦ アンプモード切り替えスイッチ (AMPLIFIER MODE)

アンプモードを切り替えます (STEREO/BI-AMP)。(「ステレオコンプリートバイアンプ接続」(13 ページ))

## ⑧ F.C.B.S.入出力端子

本機を複数台使用した高品位な再生システムの接続に使用します。(12 ページ)

## ⑨ F.C.B.S. ID ボタン

F.C.B.S.の ID 番号を設定します。(13 ページ)

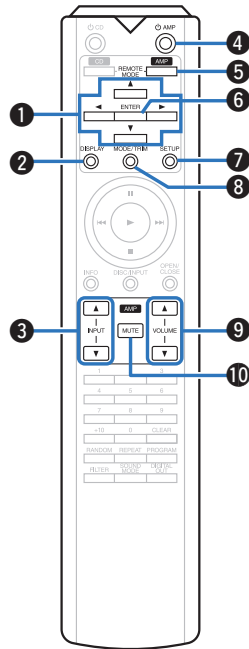
## ⑩ AC インレット (AC IN)

電源コードを接続します。(17 ページ)

# リモコン

## □ 本機の操作

本機を操作するときは、リモートモードAMP切り替えボタン(REMOTE MODE AMP)を押して、リモコンを本機の操作モードに切り替えます。

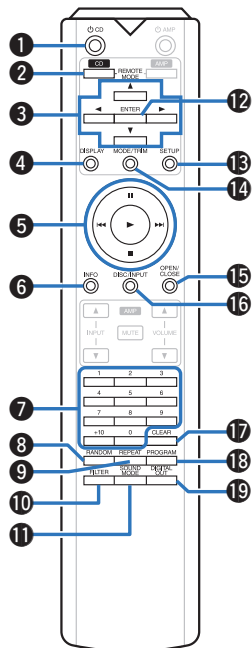


- ① **カーソルボタン(△▽◀▶)**  
項目を選択します。
- ② **ディスプレイボタン(DISPLAY)**  
ディスプレイを点灯/消灯します。長押しするたびに、イルミネーションランプの点灯/消灯を切り替えます。
- ③ **入力ソース切り替えボタン(INPUT ▲▼)**  
入力ソースを切り替えます。(☞ 18 ページ)
- ④ **電源ボタン(⏻ AMP)**  
本機の電源をオン/オフ(スタンバイ)します。(☞ 18 ページ)
- ⑤ **リモートモード AMP 切り替えボタン (REMOTE MODE AMP)**  
リモコンの操作モードをアンプに切り替えます。
- ⑥ **エンターボタン(ENTER)**  
選択した内容を確認します。
- ⑦ **セットアップボタン(SETUP)**  
メニューの設定をします。(☞ 21 ページ)
- ⑧ **音量バランス調節メニューボタン(MODE/TRIM)**  
音量バランス調節メニューをディスプレイに表示します。(☞ 19 ページ)
- ⑨ **音量調節ボタン(VOLUME ▲▼)**  
音量を調節します。(☞ 18 ページ)
- ⑩ **消音ボタン(MUTE)**  
消音します。(☞ 19 ページ)



## □ CD プレーヤーの操作

付属のリモコンは本機だけでなく、マランツ製 CD プレーヤーも操作できます。マランツ製 CD プレーヤーを操作するときは、リモートモード CD 切り替えボタン(REMOTE MODE CD)を押して、リモコンを CD プレーヤーの操作モードに切り替えます。



- ① 電源ボタン(Ⓞ CD)
- ② リモートモード CD 切り替えボタン(REMOTE MODE CD)
- ③ カーソルボタン(△▽◀▶)
- ④ ディスプレイボタン(DISPLAY)
- ⑤ システムボタン
  - スキップボタン(⏮️▶️)
  - ストップボタン(■)
  - プレイボタン(▶️)
  - ポーズボタン(⏸️)
- ⑥ インフォメーションボタン(INFO)
- ⑦ 数字ボタン(0 ~ 9, +10)
- ⑧ ランダムボタン(RANDOM)
- ⑨ リピートボタン(REPEAT)
- ⑩ フィルターボタン(FILTER)
- ⑪ サウンドモード切り替えボタン(SOUND MODE)
- ⑫ エンターボタン(ENTER)
- ⑬ セットアップボタン(SETUP)
- ⑭ 再生モード切り替えボタン(MODE/TRIM)
- ⑮ ディスクトレイ開閉ボタン(OPEN/CLOSE)
- ⑯ メディアモード切り替えボタン(DISC/INPUT)
- ⑰ クリアボタン(CLEAR)
- ⑱ プログラムボタン(PROGRAM)
- ⑲ デジタル音声出力ボタン(DIGITAL OUT)



- リモコンの操作モードが CD のときも、入力ソース切り替え、ボリューム調整やミュートなどの基本的なアンプの操作ができます。
- ご使用の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 一部操作ができない製品もあります。

# 接続のしかた

## 目次





スピーカーを接続する	9
再生機器を接続する	11
録音機器を接続する	11
F.C.B.S.接続	12
プリアンプを接続する	16
リモートコントロール端子付きの機器を接続する	17
電源コードを接続する	17

### ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因になります。

## 接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。

スピーカーケーブル	
オーディオケーブル	
バランスケーブル	
リモート接続ケーブル	

## スピーカーを接続する

### ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します。(「保護回路」(P.29 ページ))
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。
- スピーカーは次のインピーダンスのものをお使いください。

ご使用になる本機のスピーカー端子	接続するスピーカー数	スピーカーインピーダンス
SPEAKERS A (標準的な接続)	2本(1組)	4~16Ω
SPEAKERS B	2本(1組)	4~16Ω
SPEAKERS A および SPEAKERS B	4本(2組)	8~16Ω
SPEAKERS A および SPEAKERS B (バイワイヤリング接続時)	2本(1組)	4~16Ω

## スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+ (赤)、- (黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

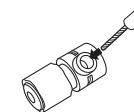
- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。



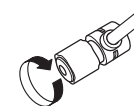
- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。


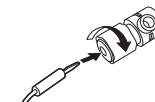


- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。



- 4 スピーカー端子を右に回して締める。



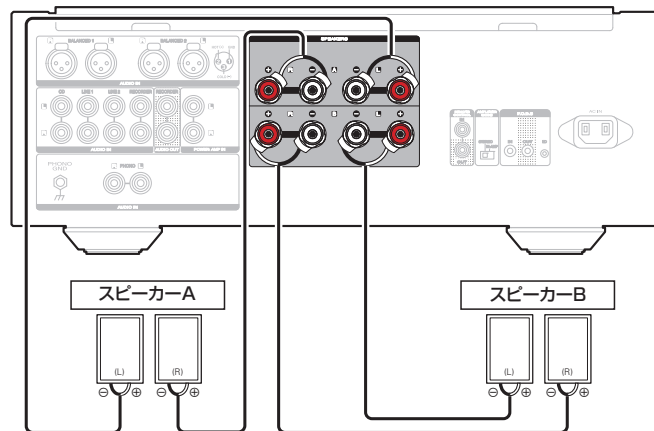
Y ラグ端子

バナナプラグの場合
端子を右に回して締め付けてから挿入する。 

## スピーカー A/B 接続

本機には、2 系統のスピーカー端子 (SPEAKER A および SPEAKER B) があります。それぞれに 1 組ずつ、最大 2 組のスピーカーを接続できます。

SPEAKERS A 端子および SPEAKERS B 端子からは同じ信号を出力します。

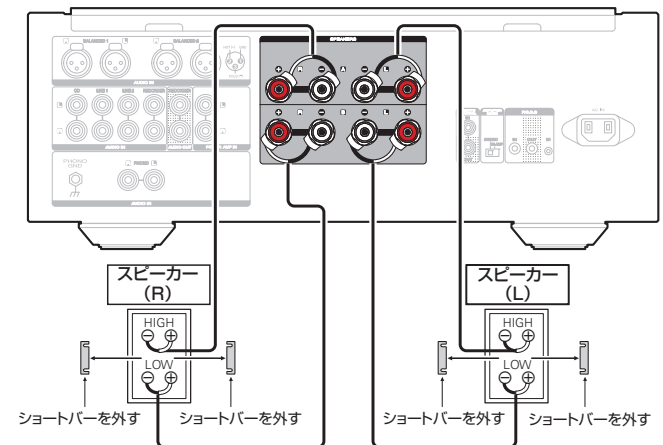
スピーカーを 1 組のみ接続するときは、SPEAKERS A または SPEAKERS B 端子のどちらかに接続してください。



## バイワイヤリング接続

この接続では高域用スピーカー (ツイーター) と低域用スピーカー (ウーファー) 間の信号が干渉することによる音質への影響をおさえることができるため、高品位な再生をお楽しみいただけます。

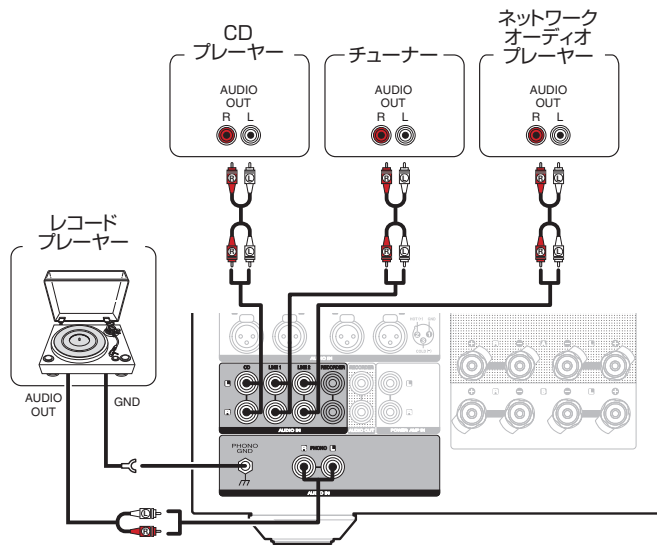
バイワイヤリング接続に対応しているスピーカーの高域用入力端子と SPEAKERS A (または SPEAKERS B) を、低域用入力端子と SPEAKERS B (または SPEAKERS A) をそれぞれ接続してください。



## 再生機器を接続する

本機には、レコードプレーヤー、チューナー、CD プレーヤーおよびネットワークオーディオプレーヤーを接続できます。接続するレコードプレーヤーのカートリッジの種類に合わせ、設定メニューの“PHONO”で本機のフォノイコライザーを設定してください。(P.22 ページ)

本機の入カソースを“PHONO”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音が発生することがあります。



### ご注意

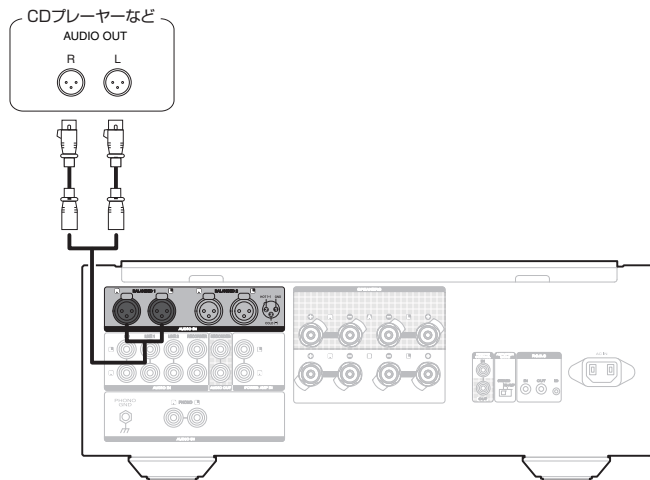
- 本機のアース端子(PHONO GND)は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなる場合があります。この場合は、アース線を接続する必要はありません。



- PHONO 入力端子にはショートピンプラグが付属しています。レコードプレーヤーを接続する際は外してください。外したショートピンプラグは大切に保管してください。

## バランス端子について

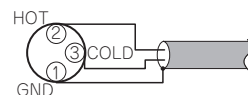
本機には、アンバランス端子の他にバランス端子を搭載しています。バランス端子は3ピン構造のため、音声信号を平衡信号で伝送でき、外来ノイズの影響を少なくすることができます。また、着脱ロック機構のためコネクタ部のぐらつきが少なく、信頼性が高いといった特長があります。



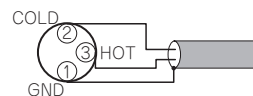
### □ バランス端子の位相について

XLR コネクターの接続方法には、プロフェッショナル用として2とおりのタイプがあります。本機では、ヨーロッパ方式を採用しています。

- ヨーロッパ方式(② PIN=HOT ③ PIN=COLD)

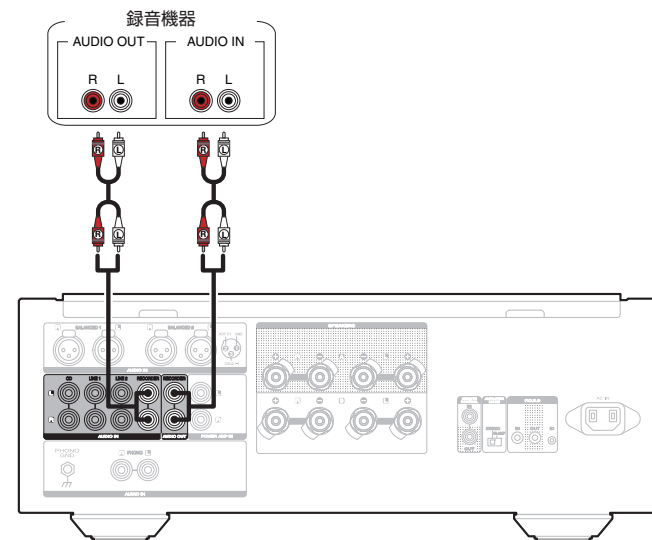


- USA 方式(② PIN=COLD ③ PIN=HOT)



本機と USA 方式を採用している製品をバランスケーブルで接続すると、信号が逆位相になります。信号の位相を正しくするには、片側の XLR コネクターの ②PIN と ③PIN を逆にながし換えてください。

## 録音機器を接続する



### ご注意

- レコーダー出力端子(AUDIO OUT RECORDER)にショートピンプラグを挿入しないでください。故障の原因になります。

## F.C.B.S.接続

マランツのシステム制御方式である F.C.B.S. (Floating Control Bus System) では、本機を複数台 (最大 4 台) 使用して高品位な再生システムを構築できます。それぞれの機器に ID 番号を設定し、各機器を制御します。

操作をおこなう機器 (マスター) と、マスターから出力する操作信号を受ける機器 (スレーブ) を、ID 番号で設定します。スレーブには、マスターからの出力信号を受ける順番に ID 番号を設定します。

F.C.B.S. 接続する本機に ID 番号を設定すると、入力ソースの切り替え、音量調節、ミュート機能およびディスプレイ表示のオン/オフ切り替えなどの連動操作がおこなえます。

また、本機を複数台使用する再生システムには、通常ステレオ出力の本機をモノラル出力アンプとして使用する機能もあります。それぞれの接続の説明にしたがって設定してください。

## F.C.B.S.接続の準備

### □ F.C.B.S.接続のしかた

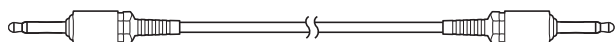
本機を複数台使用した再生システムには、音声接続の他に F.C.B.S. 接続が必要です。

各再生システムの接続については、それぞれの接続の説明をご覧ください。

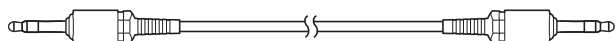
- 「ステレオコンプリートバイアンプ接続」(P.13 ページ)
- 「5.1 マルチチャンネルの接続」(P.15 ページ)

F.C.B.S. 接続には、市販されている両端がミニプラグ形状のオーディオ接続用コードを、接続する本機の台数分をご用意ください。接続コードは下記 2 種類のどちらでもかまいません。

- $\phi 3.5$  モノラルミニプラグ ↔  $\phi 3.5$  モノラルミニプラグの接続コード



- $\phi 3.5$  ステレオミニプラグ ↔  $\phi 3.5$  ステレオミニプラグの接続コード

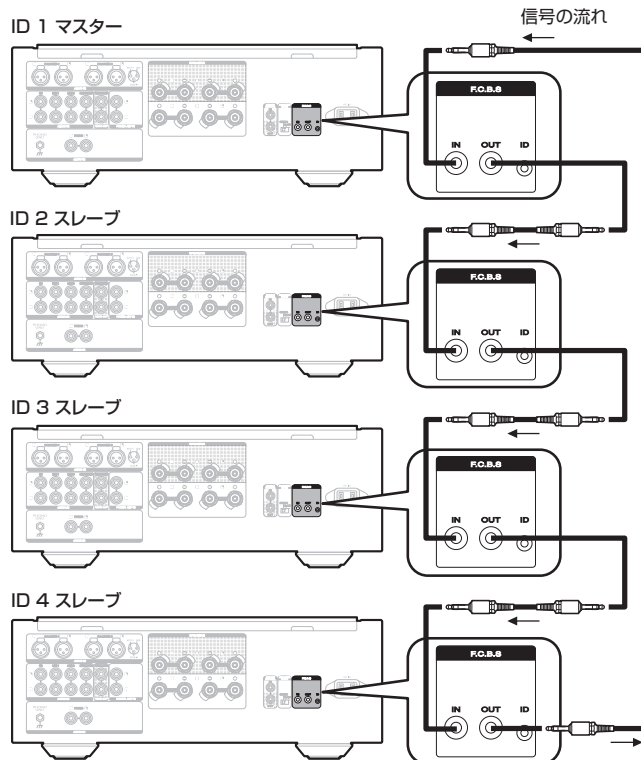


### ご注意

- 抵抗入りの接続コードは使用できません。

### □ 接続例

この例では ID 番号 1 のアンプがマスターとなり、ID 番号 2~4 のスレーブ機器 3 台すべてをコントロールします。



### ご注意

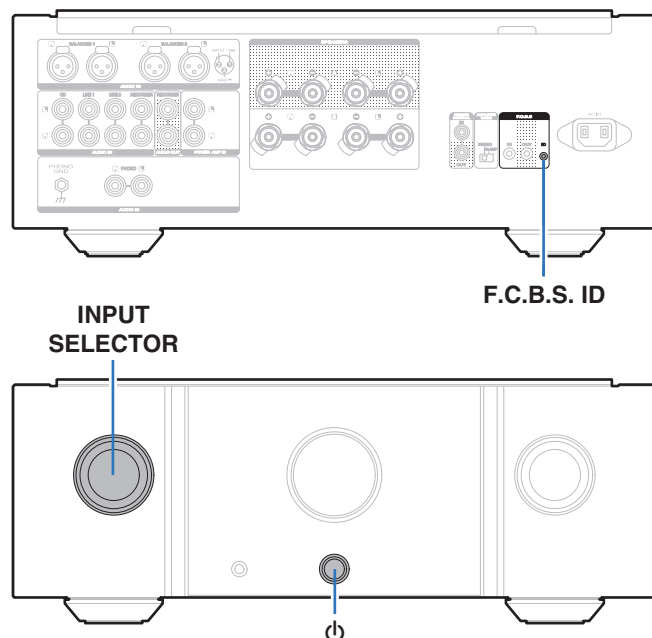
- 本機の F.C.B.S. 機能は、本機同士を接続する場合にのみ有効です。
- F.C.B.S. 接続した複数台のアンプの電源をオン/オフする場合は、ID 番号の小さいアンプから順に電源をオンにして、ID 番号の大きいアンプから順に電源をオフにしてください。

## □ F.C.B.S.のID番号の設定のしかた

電源をオンにするとディスプレイにID番号を約3秒間表示します。

マスターのID番号を“1”に設定します。

スレーブには“2”～“4”のID番号を設定します。



**1** リアパネルのF.C.B.S. IDを押しながら**0**を押す。

**2** 本体のINPUT SELECTORを回してID番号を選ぶ。

**3** 電源をオフにする。

**4** 再度電源をオンにする。

- 本機が設定を記憶します。
- スレーブに設定した機器のディスプレイには“SLAVE”を表示します。

### ご注意

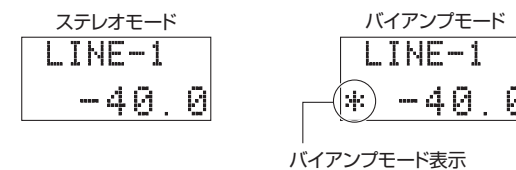
- 本機をステレオアンプとして1台で使用する場合は、ID番号を“0”に設定してください。(お買い上げ時の設定: “0”)
- ID番号を“0”以外に設定した場合は、本機を単独で使用できません。

## ステレオコンプリートバイアンプ接続

本機1台に搭載している左右のアンプをひとつのモノラルアンプとして使用できるモード(バイアンプモード)です。本機2台をF.C.B.S.接続して使います。

モードの切り替えは、本機の電源がオフのときにリアパネルのAMPLIFIER MODEスイッチでおこないます。

下図はステレオモードとバイアンプモードの表示例です。

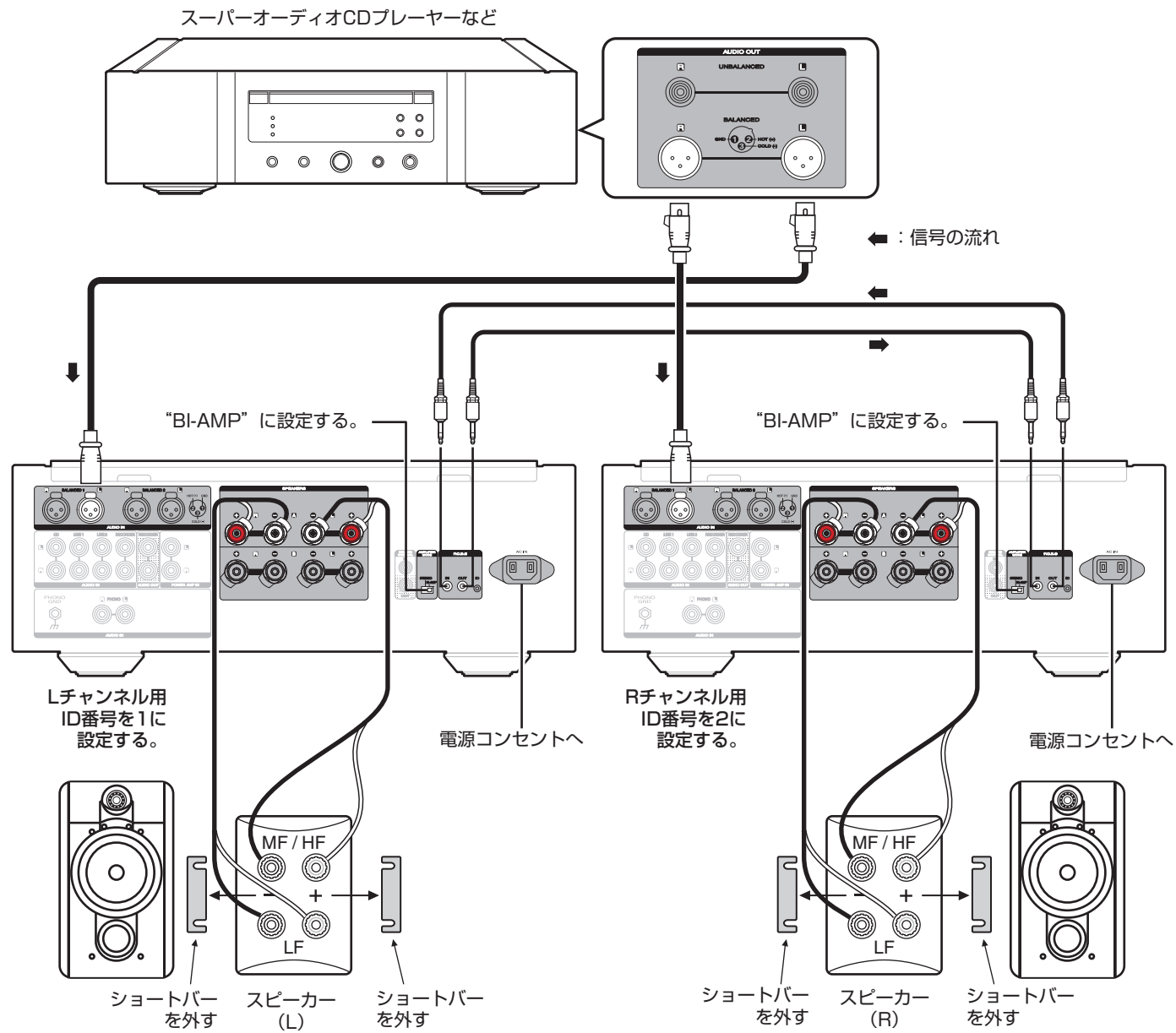


バイアンプモードでは、Lチャンネルの音声入力端子に入力します。Rチャンネルの音声入力端子には入力できなくなります。

左右のスピーカー端子からは同じ音声信号を出力します。

### ご注意

- アンプモード切り替えスイッチは必ず電源をオフにした状態で切り替えてください。電源を再度オンにすることで設定が有効になります。
- バイアンプモード時はRチャンネルの音声入力端子は使用できません。
- バイアンプモード時はLチャンネルに入力した信号を両方のチャンネルに出力します。そのため、RECORDER OUTおよびヘッドホン端子からはLチャンネル、Rチャンネル共に同じ信号を出力します。
- コンプリートバイアンプ接続できるスピーカーは、バイアンプ接続に対応している必要があります。接続する前にスピーカーの取扱説明書をご確認いただくか、スピーカーの製造元にお問い合わせください。



## 5.1 マルチチャンネルの接続

本機 3 台を F.C.B.S.接続して連動動作させます。F.C.B.S.接続のしかたは「接続例」(12 ページ)をご覧ください。

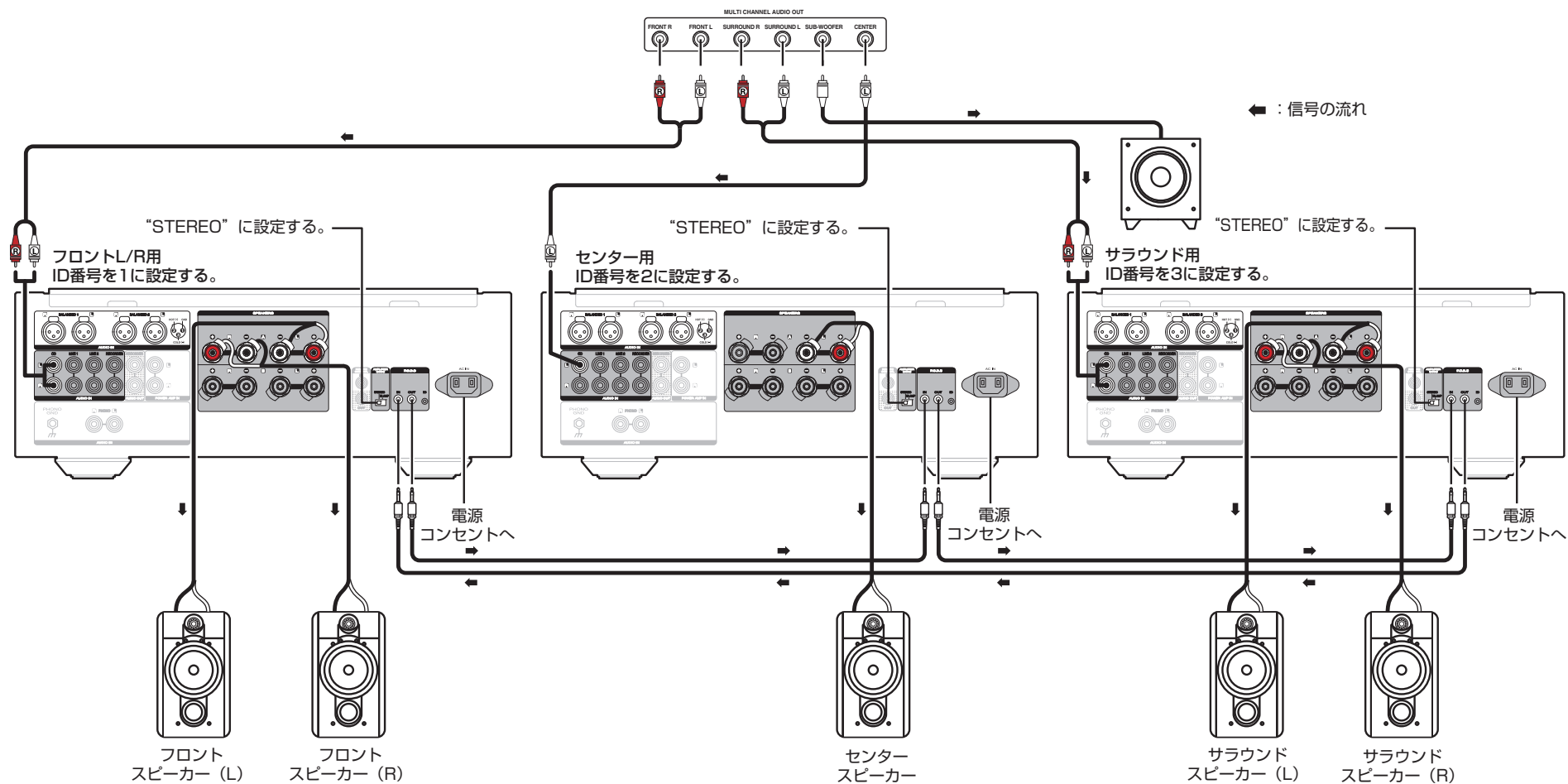
5.1 チャンネルアナログ出力を持つプレーヤーの出力をそれぞれ 3 台のアンプに接続します。

サブウーハーを使用する場合は、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

3 台のアンプの ID 番号を「ID 番号の設定のしかた」(13 ページ)を参照して設定してください。

• ID 番号 1 のアンプを操作すると、ID 番号 2 および ID 番号 3 のアンプが連動して動作します。

スーパーオーディオCDマルチチャンネルプレーヤーなど

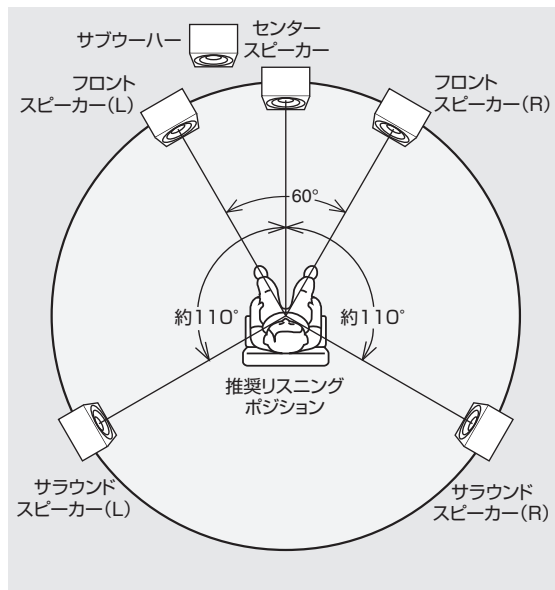




## □ スーパーオーディオ CD マルチチャンネル再生時のスピーカー設置について

スーパーオーディオ CD マルチチャンネルを最良な音場でお楽しみいただくには、ITU(国際電気通信連合)が定めた規格である「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置をおすすめします。スーパーオーディオ CD マルチチャンネルディスクは、「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置で最良の音場が得られるようにレコーディングやミキシングがおこなわれています。

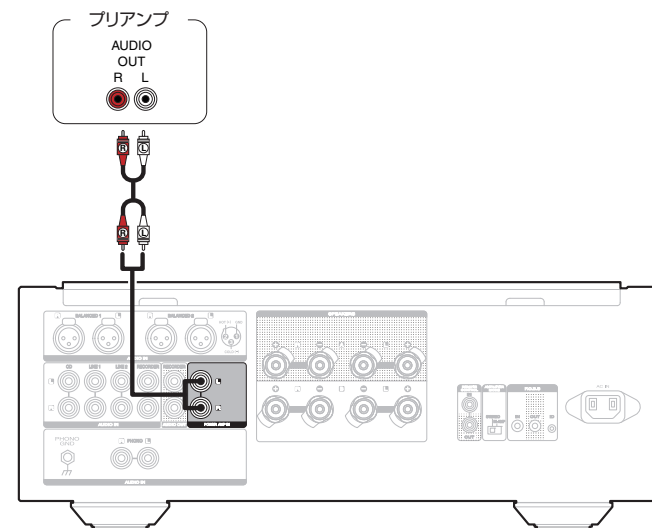
- スーパーオーディオ CD マルチチャンネルのディスクに記録されている音声信号は 5 チャンネル(3~6 も可能)が基本で、6 番目のチャンネルとして LFE(サブウーハー用)が記録されていることもあります。
- 記録されているチャンネル数はディスクに表示してあります。
- スピーカーシステムの数、フロント側 3 本、サラウンド(リア)側 2 本の 5 本が基本です。右図のように、フロント(左右)、センター、サラウンド(左右)の各スピーカーシステムを、リスニングポジションを中心とする円周上に配置します。スピーカーシステムの大きさが異なるときは、アンプ側で各チャンネルの音量を調節してください。
- 図中のサブウーハーの位置は配置の一例です。実際はお部屋の環境に合わせて配置してください。サブウーハーの接続や設定方法は、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。



- ITU(International Telecommunication Union)  
ITUとは「International Telecommunication Union(国際電気通信連合)」の略で、国際連合(UN)の専門機関の一つです。ITU-Rはその連合を構成する一つの部門で、「無線通信部門」です。  
また勧告書のITU-R BSは「放送業務(音声)」に関する規格で、ITU-R BS.775-1はその中で「マルチチャンネル立体音響システム」について定められた規格です。

## プリアンプを接続する

プリアンプをお持ちの場合は、次のように接続することで本機をパワーアンプとして使用できます。



### 1 本体の INPUT SELECTOR を回して、入力ソースを “POWER AMP” に切り替える。



- POWER AMP IN 端子にはショートピンプラグが付属しています。プリアンプを接続する際は外してください。外したショートピンプラグは大切に保管してください。
- リモコンの入力ソース切り替えボタンで入力ソースを “POWER AMP” に切り替えることはできません。

#### ご注意

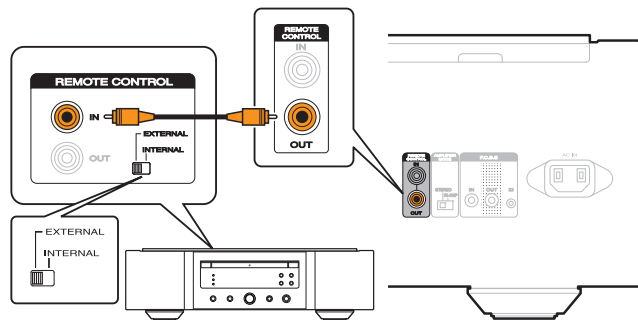
- 入力ソースが “POWER AMP” のとき、音量調節、ミュートおよび音量バランスの調節ができません。それらの調節は本機に接続しているプリアンプでおこなってください。
- 入力ソースが “POWER AMP” のとき、リモコンで入力ソースを切り替えることはできません。
- 入力ソースが “POWER AMP” のとき、本機の音量は最大になります。再生する前に入力側の機器の出力レベルを確認し、音量を調節してください。

## リモートコントロール端子付きの機器を接続する

### マランツ製オーディオ機器をリモート接続する

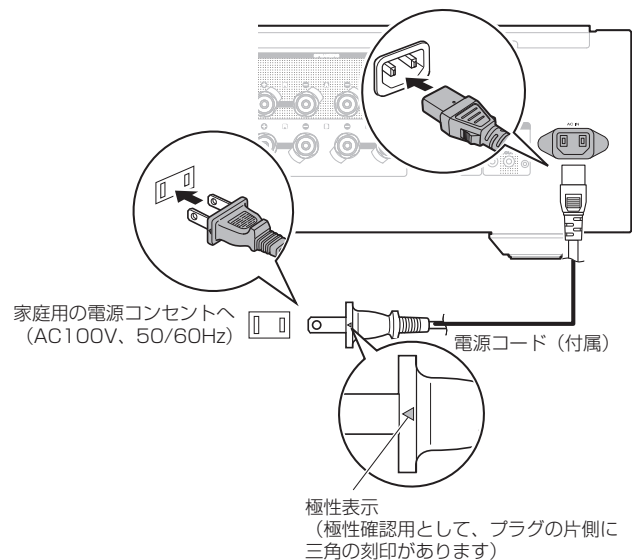
マランツ製オーディオ機器に付属しているリモート接続ケーブルを使用して REMOTE CONTROL IN/OUT 端子に機器を接続するだけでリモコン信号を転送できます。

この接続をおこなう場合は、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチを“EXTERNAL”に設定してください。



## 電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。

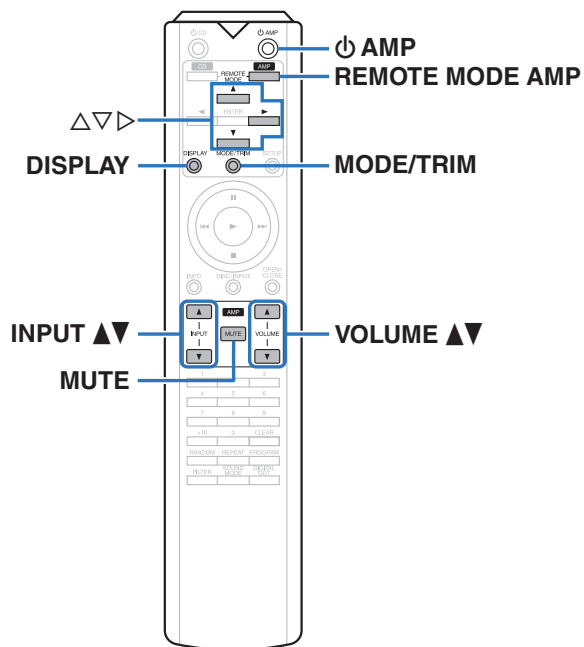


- 付属の電源コードには、極性を表示しています。お好みの音質になるようにコンセントへ差し込んでください。

# 再生のしかた

## 目次

電源を入れる	18
入力ソースを選ぶ	18
音量を調節する	18
一時的に音を消す(ミュート)	19
音量バランスを調節する	19
ディスプレイやイルミネーションランプを消灯する	19
イルミネーションランプを常に消灯する	19
CDを再生する	20
録音する	20



## 電源を入れる

### 1 本体の **AMP** を押して、電源を入れる。

- 電源表示が青色に点灯します。
- 再生可能な状態になるまで、スタンバイ表示が赤色に点滅します。



- スタンバイ状態から再び電源を入れるときは、リモコンの **AMP** を押してください。
- スタンバイ状態のときに本体の INPUT SELECTOR を回しても、電源がオンになります。

## 電源をスタンバイにする

### 1 リモコンの **AMP** を押す。

STANDBY 表示が赤色に点灯します。

### ご注意

- 電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、本体の **AMP** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

## 入力ソースを選ぶ

### 1 INPUT ▲▼ を押して、再生する入力ソースを選ぶ。

ディスプレイに選んだ入力ソースを表示します。



- 本体の INPUT SELECTOR を回しても、入力ソースを選択できます。

## 音量を調節する

### 1 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。



- 本体の VOLUME を回しても、音量を調節できます。

## 一時的に音を消す(ミュートイング)

### 1 MUTE を押す。

ディスプレイに“ATT”を表示してミュートします。



- ミュートを解除するときは、もう一度 MUTE を押してください。

### □ ミュートの減衰量を設定する

減衰量は-20dB、-40dB、-∞のいずれかに設定できます。

- お買い上げ時は-∞に設定しています。

### 1 MUTE を 2 秒以上長押しする。

ディスプレイに減衰量を表示します。

### 2 MUTE を押す。

押すたびに減衰量の設定値が切り替わります。



- 約 2 秒間操作をしない場合は、設定を確定して通常のディスプレイ表示に戻ります。

## 音量バランスを調節する

左右の音量を 0.5dB 刻みに 0.0dB から 9.0dB の範囲で調節できます。

お買い上げ時は 0.0dB(最大)に設定しています。

### 1 MODE/TRIM を押す。

音量バランス調節モードになります。

- L チャンネルの音量表示が点滅します。

### 2 Δ▽ を押して、L チャンネルの音量を調節する。

### 3 ▷ を押す。

R チャンネルの音量バランス調節モードになります。

- R チャンネルの音量表示が点滅します。

### 4 Δ▽ を押して、R チャンネルの音量を調節する。

### 5 MODE/TRIM を押す。

音量バランス調節モードを終了します。

- F.C.B.S 接続で“スレーブ”(P.12 ページ)を接続しているときは、続けてスレーブの設定をします。

## ディスプレイやイルミネーションランプを消灯する

ディスプレイおよびディスプレイ回路から発生するノイズがアナログ音声出力信号に与える影響を抑えるため、ディスプレイ回路の動作を停止できます。

### 1 DISPLAY を押す。

DISPLAY を押すたびに、ディスプレイとイルミネーションランプの点灯 / 消灯を同時に切り替えます。



- ディスプレイ消灯時に音量調節つまみなどを操作すると、ディスプレイが再点灯します。操作を終了すると、約 2 秒後に自動的に消灯します。

## イルミネーションランプを常に消灯する

ディスプレイ表示のオン/オフにかかわらず、イルミネーションランプを常に消灯します。

### 1 点灯中に DISPLAY を 2 秒以上長押しする。

消灯から点灯に設定を変更するときは、再度 DISPLAY を 2 秒以上長押ししてください。

## CDを再生する

ここでは、CDの再生のしかたを例に説明します。

- 1 本体の **⏻** を押して、電源を入れる。
- 2 INPUT ▲▼ を押して、入力ソースを“CD”に切り替える。  
本体のディスプレイに“CD”を表示します。
- 3 CDを再生する。
- 4 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

## 録音する

本機に入力した音声信号を、外部の録音機器に出力することができます。本機に接続した再生機器の音声を録音する際、再生機器を本機に接続したまま録音できます。

- 1 本体の **⏻** を押して、電源を入れる。
- 2 INPUT ▲▼ を押して、録音したい入力ソースに切り替える。  
本体のディスプレイに選択した入力ソースを表示します。
- 3 録音をはじめる。
  - 操作のしかたは、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

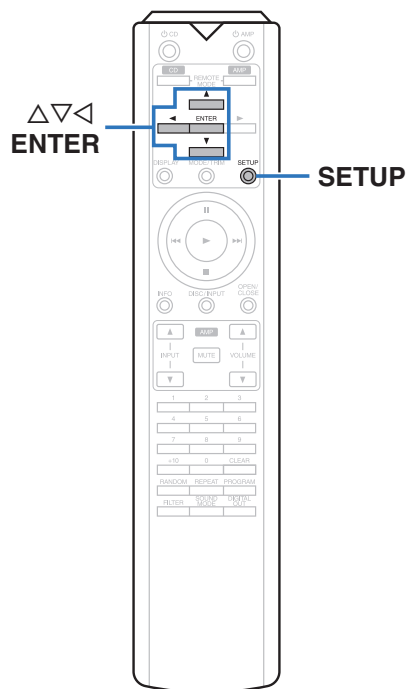
# 設定のしかた

## メニュー一覧

本機はお買い上げ時の設定をおすすめの設定にしております。ご使用のシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	内容	参照ページ
PUREST	本機の一部の回路を停止して音質に影響を与えるノイズ源を抑え、より高音質な再生ができる PUREST モードの設定をします。	22
PHONO	接続するレコードプレーヤーのカートリッジの種類やインピーダンスに応じて、本機のフォノイコライザーを設定します。	22
AUTO STBY (Auto Standby)	本機が停止状態で何も操作しない状態が 30 分以上続いたとき、自動的にスタンバイ状態になるように設定します。	22

## メニューの操作のしかた



- 1** **SETUP** を押す。  
ディスプレイにメニューを表示します。
- 2** **△▽** を押して設定または操作したいメニューを選び、**ENTER** を押す。
- 3** **△▽** を押して、お好みの設定に変更する。
- 4** **ENTER** を押して、設定を確定する。
  - 前の項目に戻るときは、**<** を押してください。
  - メニューを終了するときは、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。通常表示に戻ります。

## PUREST

次の回路を全て停止することにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑え、より高音質な再生ができます。

- 録音出力回路
- 無信号検出回路
- ヘッドホン回路

**ON:** 高音質モード(PUREST モード)を有効にします。

**OFF** 高音質モード(PUREST モード)を(お買い上げ時の設定): 無効にします。



- PUREST モードがオンの場合
  - 録音出力端子からの音声出力を停止します。
  - オートスタンバイ機能がはたらきません。
  - ヘッドホンを接続すると、ヘッドホン回路がはたらいてヘッドホンから音声を出力します。

## PHONO

接続するレコードプレーヤーのカートリッジの種類やインピーダンスに応じて、本機のフォノイコライザーを設定します。

**MM** MM カートリッジの場合に設定します。(お買い上げ時の設定): す。

**MC Low:** 10Ω 未満の MC カートリッジの場合に設定します。

**MC High:** 10Ω 以上の MC カートリッジの場合に設定します。

### ご注意

- 本設定の切り替え操作をおこなった場合、切り替えてから約 10 秒後に再生音を出力します。(再生可能な状態になるまで、スタンバイ表示が赤色に点滅します。)

## AUTO STBY (Auto Standby)

音声の入力がない状態で本機を約 30 分間操作しないとき、自動的にスタンバイになるように設定します。

**On:** 本機をオートスタンバイモードに設定します。

**Off** 本機をオートスタンバイモードに設定(お買い上げ時の設定): 定しません。



- 自動的にスタンバイになる 3 分前から、ディスプレイに残り時間を表示します。
- F.C.B.S 接続で使用した場合、オートスタンバイの検出は ID1 マスターでのみおこないます。ID1 マスターに音声入力がない状態で使用する場合は、オートスタンバイモードの設定をオフにしてください。

# 困ったときは

## □ 目次

### こんなときの解決方法

ミュート時の減衰量を変更したい	24
イルミネーションランプを点灯しないようにしたい	24
本機を複数台使用して高品位な再生をおこないたい	24
本機のリモコンを使ってマランツ製 CD プレーヤーを操作したい	24
バイワイヤリング対応のスピーカーを接続したい	24
本機をパワーアンプとして使用したい	24
本機の一部の回路を停止して高音質再生を楽しみたい	24

### 故障かな？と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる	25
リモコンで操作ができない	26
音がまったく出ない	26
希望する音が出ない	27
音がひずんだり、ノイズが入ったりする	27
エラーメッセージについて	27



## こんなときの解決方法

### ミュート時の減衰量を変更したい

- 減衰量は-20dB、-40dB、-∞のいずれかに設定できます。(P.19 ページ)

### イルミネーションランプを点灯しないようにしたい

- イルミネーションランプの設定をオフにしてください。(P.19 ページ)

### 本機を複数台使用して高品位な再生をおこないたい

- ステレオコンプリートバイアンプ接続をおこなってください。(P.13 ページ)
- マルチチャンネル接続をおこなってください。(P.15 ページ)

### 本機のリモコンを使ってマランツ製 CD プレーヤーを操作したい

- リモコンのリモートモード CD 切り替えボタン (REMOTE MODE CD) を押して、リモコンを CD プレーヤーの操作モードに切り替えてください。(P.8 ページ)
- CD プレーヤーの操作方法については、CD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

### バイワイヤリング対応のスピーカーを接続したい

- 本機はバイワイヤリング接続に対応しています。バイワイヤリング接続をすることで、高品位な再生をお楽しみいただけます。(P.10 ページ)

### 本機をパワーアンプとして使用したい

- プリアンプを本機の POWER AMP IN 端子に接続してください。(P.16 ページ)

### 本機の一部の回路を停止して高音質再生を楽しみたい

- メニューの“PUREST”を“ON”に設定してください。(P.22 ページ)

## 故障かな？と思ったら

最初に次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。

なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

### □ 電源が入らない / 電源が切れる

症状	原因 / 対策	関連ページ
電源が入らない。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	<a href="#">17</a>
電源が自動的に切れる。	• オートスタンバイモードがオンになっています。音声入力がない状態で約 30 分間本機を操作しないでいると、本機は自動的にスタンバイになります。オートスタンバイモードを解除するには、メニューの“AUTO STBY”を“OFF”に設定してください。	<a href="#">22</a>
電源が切れ、STANDBY 表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。	<a href="#">29</a>
	• 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	—
	• スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端未処理をするなどしたあとで、接続し直してください。	<a href="#">9</a>
	• 音量を下げ、電源を入れ直してください。	<a href="#">18</a>
	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	—

## □ リモコンで操作ができない

症状	原因 / 対策	関連ページ
リモコンで操作ができない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。	<a href="#">3</a>
	• リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。	<a href="#">3</a>
	• 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。	—
	• 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。	<a href="#">3</a>
	• 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。	—
	• 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。	—
	• リモコンのリモートモード AMP 切り替えボタン(REMOTE MODE AMP)を押して、リモコン操作モードを“AMP” にしてください。	<a href="#">7</a>

## □ 音がまったく出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
スピーカーから音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。	<a href="#">9</a>
	• 接続ケーブルを奥まで挿してください。	—
	• 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	—
	• ケーブルが破損していないか確認してください。	—
	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。	<a href="#">9</a>
	• スピーカー端子をしっかり締めてください。また、スピーカー端子が緩んでいないか確認してください。	<a href="#">9</a>
	• 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	<a href="#">18</a>
	• 音量を適切な大きさに調節してください。	<a href="#">18</a>
	• ミュート(消音)モードを解除してください。	<a href="#">19</a>
• 本体のヘッドホン端子にヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子から音が出なくなります。	<a href="#">5</a>	

## □ 希望する音が出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
特定のスピーカーから音が出ない。	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。	<a href="#">9</a>
	• 左右の音量バランスを調節してください。	<a href="#">19</a>
ステレオ再生のときに、左右の音声が入れ替わっている。	• 左右のスピーカーが正しいスピーカー端子に接続されているか確認してください。	<a href="#">9</a>

## □ 音がひずんだり、ノイズが入ったりする

症状	原因 / 対策	関連ページ
レコード再生のときに、音がひずむ。	• 針圧を調節してください。	—
	• レコードの針先を確認してください。	—
	• カートリッジを交換してください。	—
レコード再生のときに、“ブーン” という雑音がスピーカーから出力される。	• レコードプレーヤーが正しく接続されていることを確認してください。	<a href="#">11</a>
	• レコードプレーヤーの近くにテレビや AV 機器などがあると、再生音に影響を受ける場合があります。レコードプレーヤーをテレビや AV 機器などから離して設置してください。	—
レコード再生のときに音量を大きくすると、“ワーン” という雑音がスピーカーから出力される。(ハウリング現象)	• レコードプレーヤーとスピーカーを離して設置してください。	<a href="#">11</a>
	• スピーカーの振動が床を通してプレーヤーに伝わる場合があります。スピーカーの振動をクッションなどで吸収させてください。	—

## エラーメッセージについて

F.C.B.S.接続で本機を複数台使用した場合、ディスプレイに次の表のようなエラーメッセージが表示されることがあります。このような場合は ID 番号の設定やリモートケーブルの接続に問題があります。次の表を参考にして ID 番号やリモートケーブルの接続が正しいかを確認してください。ID 番号の設定のしかたは、「F.C.B.S.の ID 番号の設定のしかた」([p.13](#) ページ)をご覧ください。

表示	意味	原因 / 対策
ERROR 02	ID 番号 2 のアンプが重複しています。	• ID 番号が重複しないように ID 番号を設定してください。
ERROR 03	ID 番号 3 のアンプが重複しています。	
ERROR 04	ID 番号 4 のアンプが重複しています。	
ERROR 11	ID 番号 2~4 のアンプが ID 番号 1 のアンプと通信できません。	• ID 番号 1 のアンプに電源が入っていない場合は電源を入れてください。 • リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。
ERROR 12	ID 番号 1 のアンプが ID 番号 2~4 のアンプと通信できません。	• ID 番号 1 のアンプが重複している場合は ID 番号を正しく設定してください。 • ID 番号 1 のアンプに ID 番号 0 のアンプを接続している場合は、ID 番号を正しく設定してください。 • リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。

## 保証と修理について

### □ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

### □ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

#### ご注意

- 保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

### □ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

### □ 修理料金のしくみ

- 技術料……故障した製品を正常に修復するための料金です。  
技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代……修理に使用した部品代金です。  
その他修理に付帯する部材などを含む場合があります。
- 出張料……製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。  
別途駐車料金をいただく場合があります。

### □ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

### □ 修理を依頼される時

#### 修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただかずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

#### 修理を依頼される時

- 修理お問い合わせ窓口へご相談ください。
- 出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただきますこととなりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼される時のために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

### □ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号……保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容


### □ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

## 用語の解説

### MM/MC カートリッジ

レコードプレーヤーに取り付けるカートリッジには、MM 型 (Moving Magnet) と、MC 型 (Moving Coil) の 2 種類があります。出力レベルがそれぞれ異なるため、本機に搭載しているフォノイコライザーアンプの設定を、お使いのカートリッジの種類に合わせて切り替える必要があります。設定の切り替えは設定メニューの“PHONO”でおこなってください。

( 22 ページ)

### スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで  $\Omega$  (オーム) という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

### 保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。本機では、異常発生時には電源表示が赤色に点滅し、スタンバイ状態になります。

## 主な仕様

• 定格出力(両チャンネル同時駆動):	200W x 2(負荷 8Ω、1kHz、T.H.D. 0.05%) 400W x 2(負荷 4Ω、1kHz、T.H.D. 0.1%)
• 全高調波歪率: (1kHz、両チャンネル同時駆動、100W、負荷 8Ω)	0.005%
• 周波数特性(CD、1W、負荷 8Ω):	5Hz~50kHz ±3dB
• ダンピングファクター(負荷 8Ω、20Hz~20kHz):	500
• 入力感度/ 入力インピーダンス	
PHONO(MC Low):	280μV/10Ω
PHONO(MC High):	280μV/49Ω
PHONO(MM):	2.6mV/47kΩ
BALANCED:	880mV/40kΩ
CD/LINE/RECORDER:	440mV/20kΩ
POWER AMP:	1.5V/20kΩ
• PHONO 最大許容入力(1kHz)	
MC:	8mV
MM:	80mV
• RIAA 偏差(20Hz~20kHz):	±0.5dB
• S/N 比(IHF A ネットワーク、負荷 8Ω)	
PHONO(MC):	76dB(0.5mV 入力、1W 出力)
PHONO(MM):	88dB(5mV 入力、1W 出力)
BALANCED:	111dB(4V 入力、定格出力)
CD/LINE/RECORDER:	111dB(2V 入力、定格出力)
• 電源:	AC100V、50/60Hz
• 消費電力:	270W
• スタンバイ時の消費電力:	0.3W

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

はじめに

接続のしかた

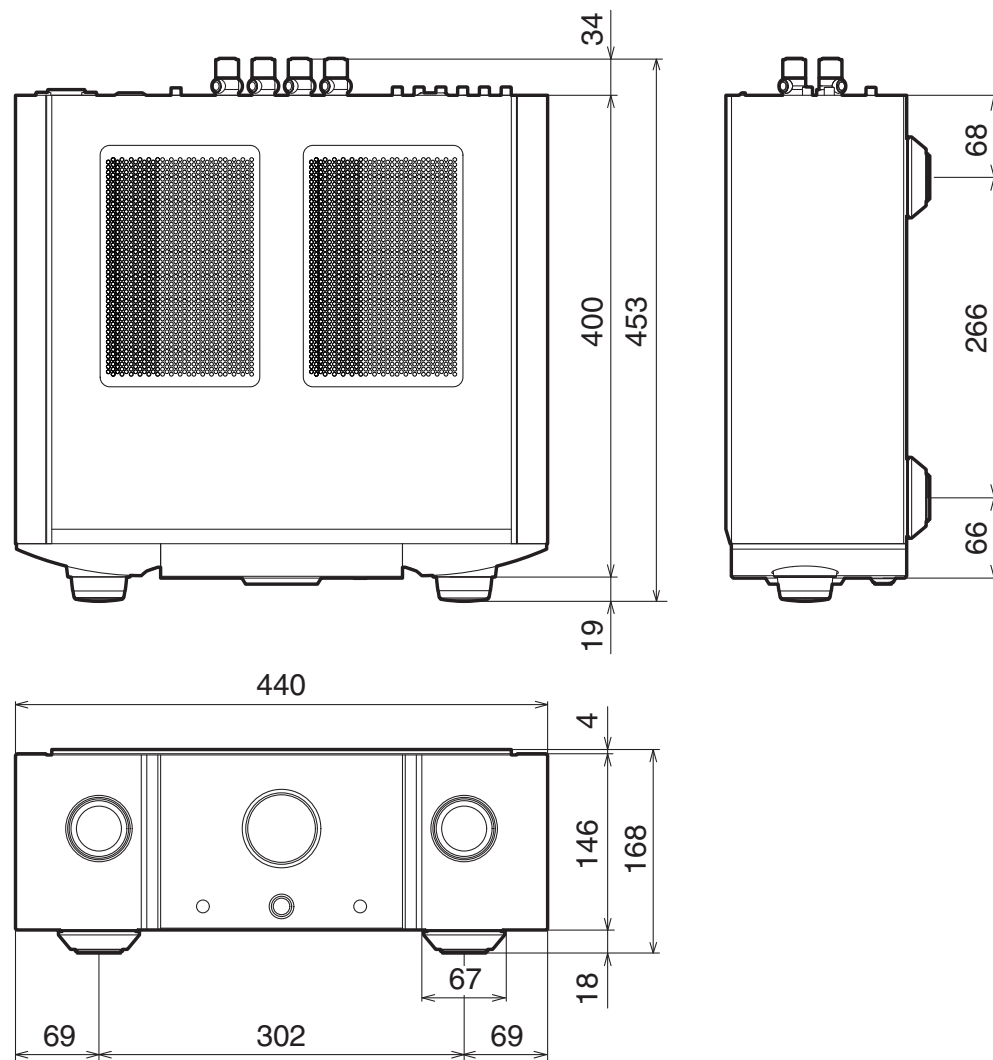
再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録

□ 寸法(单位:mm)



□ 質量:21.3kg



# 索引

<b>㊦ C</b>		<b>㊦ て</b>		<b>㊦ み</b>	
CD プレーヤー .....	11, 20	ディスプレイの明るさ .....	19	ミュートイング .....	19
<b>㊦ F</b>		<b>㊦ に</b>		<b>㊦ め</b>	
F.C.B.S.制御 .....	12	入力ソース .....	18	メニュー 一覧 .....	21
<b>㊦ お</b>		<b>㊦ は</b>		<b>㊦ り</b>	
オートスタンバイモード .....	22	バイワイヤリング .....	10	リアパネル .....	6
音量 .....	18	<b>㊦ ふ</b>		リモートコントロール .....	17
<b>㊦ こ</b>		フロントパネル .....	5	リモコン .....	7
故障かな?と思ったら .....	25	<b>㊦ ほ</b>		<b>㊦ れ</b>	
こんなときの解決方法 .....	24	保護回路について .....	29	レコードプレーヤー .....	11
<b>㊦ す</b>					
スピーカー .....	9				
スピーカーインピーダンス .....	29				

はじめに

接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録






当社製品のご相談と修理についてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記窓口にご連絡ください。

## お客様相談センター

 0570 (666) 112


FAX : 044 (330) 1367

- 受付時間 9:30 ~ 17:30  
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)
- 上記番号がご利用いただけない場合  050 (3388) 6801  
〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル
- お問い合わせをいただく前に、ホームページのFAQをご確認ください。  
<http://marantz.jp/jp/html/faq.html>
- メールでお問い合わせをいただくこともできます。  
<http://marantz.jp/jp/html/contact.html>

\* 電話番号・ファックス番号・URL は変更になる場合があります。

## 修理相談窓口

 0570 (666) 811

- 受付時間 9:30 ~ 12:00、13:00 ~ 17:30  
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)
- 上記番号がご利用いただけない場合  0466 (86) 9520
- 故障・修理・その他のサービス関連情報については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。  
<http://marantz.jp/jp/html/service.html>
- 代表修理窓口  
首都圏サービスセンター  
〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤2010-16  
FAX : 0466 (86) 9522

\* ディーアンドエムホールディングス本社では製品の修理を受け付けておりません。

# marantz®

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

〒210-8569

神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル